

# 平成28年度全国学力・学習状況調査 結果の概要

女川町立女川中学校

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 改善への取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査実施日 平成28年4月19日(火)

3 対象学年 女川中学校第3学年生徒 61名(在籍63名) 当日実施生徒57名

## 4 調査事項及び内容

- (1) 教科に関する調査：国語、数学
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

## 5 本校と全国との比較

	国語A	国語B	数学A	数学B
宮城県	3ポイント程度下回っている。 ▼	7ポイント程度下回っている。 ▼	5ポイント程度下回っている。 ▼	7ポイント程度下回っている。 ▼
全国	2ポイント程度下回っている。 ▼	6ポイント程度下回っている。 ▼	7ポイント程度下回っている。 ▼	8ポイント程度下回っている。 ▼

○国語、数学ともに、県及び全国平均正答率を下回る結果となった。

## 6 学力調査結果から

(1) 国語の成果・課題と指導改善のポイント(県・全国と比較して特に課題のある点を中心に)

①調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・「話すこと・聞くこと」領域で、話の中心に注意して話す力が県・全国よりも高い。
- ・「読むこと」については、小説の読み取りが一般的に県・全国よりも高い。

(課題)

- ・「話すこと・聞くこと」については、特に資料を活用しながら聞いたり、目的意識をもって聞く力、聞いたことに対して自分の考えをまとめる力が不十分である。
- ・「書くこと」については、読み手に効果的に伝わるように書く力、構成力、根拠を明確にして書く力が低い。
- ・「読むこと」については、読み取ったことに対する自分の考えをまとめる力、資料を活用する力、要約する力が低い。
- ・「言語事項」(漢字の読み書き、語句の意味、敬語、手紙の書き方)については、漢字の読み書き、文法等は県・全国並みであるが、語句の意味、漢和辞典の使い方、歴史的仮名遣いの知識が県・全国よりも低い。

②指導改善のポイント

- ・「話すこと」については、資料を効果的に活用しながら話す力を高める必要があり、「聞くこと」については目的意識をもって能動的に聞く力をつける必要がある。
- ・「書くこと」については、相手意識、構成力、根拠を明確にして書こうとする態度の育成が必要である。
- ・「読むこと」では、要約する力、読み取ったことに対する自分の考えをもつ力が必要である。
- ・国語の力の土台となる「言語事項」については、語彙を増やすこと、辞典の使い方、歴史的仮名遣いの基礎的な力を高める学習を充実させる必要がある。

(2) 数学の成果・課題と指導改善のポイント(県・全国と比較して特に課題のある点を中心に)

①調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・「数と式」については、ほぼ県・全国と同等の力であり、特に正負の加法、正式の加法と減法、一元一次方程式、比例式の正答率が県・全国よりも高い。
- ・「図形」については、ほぼ県・全国と同等の力であり平面図形の理解力が県・全国よりも高い。

(課題)

- ・「数と式」については、分数と小数の乗法、自然数の意味、数量の関係を文字式に表すこと、不等式の意味の正答率が県・全国よりも低い。
- ・「図形」については、空間図形の理解力が県・全国よりも低い。
- ・「関数」については、ほぼ全ての設問において全国を下回っており、大きな課題である。
- ・「資料の活用」については、全ての設問において全国を下回っており、大きな課題である。

- ・活用する力については、設問15のうち13問が県・全国正答率よりも低い。特に、説明する力、証明する力については大きく下回り、課題である。

## ②指導改善のポイント

- ・「数と式」については、力が不足している部分について取り立てて補充学習を行う。
- ・「図形」については、空間図形分野の補充学習が必要である。
- ・「関数」については、特にグラフの理解に十分時間をかけて指導する必要がある。
- ・特に、考えを説明する力、情報を選択して適切に処理する力を高めるための指導が必要である。

## 7 生活習慣や学習環境に関する調査から

〈生活習慣・意識調査について〉

- 「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦しているか」について肯定的回答が県・全国平均よりもやや高い。
- 将来の夢や目標をもっている生徒の割合が県・全国よりも高い。
- いじめは許されないことだと感じている生徒の割合が県・全国よりも高い。
- 人の役に立つ人間になりたいと感じている生徒の割合が県・全国よりも高い。
- ▲起床、就寝、朝食について、規則正しい生活習慣が身に付いている生徒の割合が県・全国よりもやや低い。
- ▲「自分にはよいところがあると思うか」について、思う生徒が県・全国よりも少なく、自己肯定感、自尊感情が低い傾向がうかがわれる。
- ▲学校に行くのが楽しいと感じている生徒の割合が県・全国平均よりも低い。
- ▲地域の行事に参加していると答えた生徒の割合が県・全国平均よりも低い。
- ▲地域社会などでボランティア活動に参加したことがあると答えた生徒の割合が県・全国よりも低い。
- ▲新聞を全く詠まない生徒の割合が県・全国平均よりも高い。

〈学習を阻害する要因について〉

- ▲携帯電話やスマホを使ったメール、インターネット等をしている時間が県・全国平均よりも長い。

〈学力向上を促進する要因について〉

- ▲学習塾に通っている生徒の割合が県・全国平均より低い。
- ▲学校以外で読書をする時間が県・全国平均よりも少ない。特に、全くない生徒が約半数いる。
- ▲平日・土日ともに、家庭学習時間が県・全国平均よりも少ない。
- ▲家で学校の授業の予習をしている生徒の割合が県・全国平均よりもやや低い。

〈授業に関する調査について〉

- 2年生のときに受けた授業では、めあてが示されていたと感じている生徒、めあてをノートに書いていたと答えた生徒の割合が県・全国よりもやや高い。
- 授業で分からないことがあったら先生に尋ねると答えた生徒の割合が県・全国よりも高い。
- ▲友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意だと答えた生徒の割合が県・全国平均よりも低い。
- ▲先生は分かるまで教えてくれると感じている生徒の割合が県・全国よりもやや低い。
- ▲2年生で受けた授業では自分の考えを発表する機会が与えられていたと答えた生徒の割合が県・全国よりも低い。
- ▲数学の授業で学習したことが将来役に立つと考えている生徒の割合が県・全国平均よりも低い。
- ▲数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えると答えた生徒の割合が県・全国よりも低い。

## 8 今後の取組

### (1) 学びの土台となる学習習慣の形成

- ① 自主学習ノート（「継続は力なり」）を毎日提出させ、点検して返却する。
- ② 授業で学習した内容の定着を図る復習問題、次時の学習につながる学習課題を用意して行わせる。

### (2) 学びを促進させる生活習慣の形成

- ① マイセブンデイズを活用し、早寝・早起き・朝ごはんの習慣をより促進させる。
- ② 生徒会で推進している「1210運動」（携帯電話・スマホの使用は1日2時間以内、10時まで）をさらに支援し、保護者の啓蒙も図っていく。
- ③ 朝読書の推進、読書記録カードの作成等を通して、読書習慣の定着を図る。

### (3) 教科の学習指導

- ① 国語、数学、理科それぞれについて、前述した指導改善のポイントを共通理解して教科の学習指導で実践していく。
- ② 質問紙調査で明らかになった課題である、授業のねらいをつかませること、振り返りの時間を確保することを意識して、校内研究副題として全教科で実践を積み上げていく。
- ③ 調査問題を教師自身が解き、求められている力を理解した上で、授業づくりを行う。

### (4) その他

- ① 校内研究の推進、研究授業の実施、各種学力調査等の分析を行い、教員の学習指導力の向上を図る。
- ② 小・中における課題及び取組を共有し、小・中連携を図りながら改善に取り組む。
- ③ 基礎的・基本的な知識・理解を定着させるために、小テストを定期的の実施し、積み上げていく。